

市指定文化財<史跡>

わたるざんとうふくじ
輪足山東福寺

指定日 昭和51年11月25日

所在地 菊池市巨



当寺は城山丘陵の中腹にあり、輪足山松林院と号する天台宗の勅願寺である。門前には加藤清正により開かれたと伝えられる築地井手が流れている。

創建年は和銅2年(709)覚仏の開基説や天慶元年(938)澄慶の開基説など諸説ある。本尊は千手観音立像で、脇侍不動明王立像、毘沙門天立像と絹本箸色不動明王画像は、いずれも県指定重要文化財である。

現在の本堂(間口3間×奥行5間)15坪と庫裏(間口7間半×奥行3間)22.5坪は、文政2年(1819)に再建されたもので、境内には元弘塔(1331~34)、建武塔(1334~38)、応永塔(1394~1428)、永享塔(1429~41)、寛正塔(1460~66)など10基の塔石がある。

『寺縁起』には天禄元年(970)に菊池一族とみられる名の政高なる人物が、郡司として寺に田地を寄進している。『国軍一統誌』は「延久4年(1072)菊池則隆再興」と記し、盛時には36坊が建ち並んだとある。